

## ○プロジェクト研究 1757-1

### 研究課題「茨城県立医療大学の認知度及び魅力を向上させるウェブ 広報の効果の検討」

○研究代表者	人間科学センター教授	佐藤 純
○研究分担者	人間科学センター准教授	萬代 望
(4名)	医科学センター准教授	角 友起
	放射線技術科学科助教	中島修一
	医科学センター・嘱託助手	塚本和己

○研究年度 平成29年度  
(研究期間) 平成29年度～平成31年度(3年間)

#### 1. 研究目的

本研究課題の目的は、次の2点である。①茨城県立医療大学が茨城県内の小中高生および県内外の人々にどのように認知されているかを調査する。②大学生と教職員協同作成・運営したウェブ広報による本学の認知度および魅力の向上の効果を検討する。

①の茨城県立医療大学の認知度については、塚本他(2015)が、本学から10km圏内にある中学校の2学年生徒を対象に調査を行い、本学の存在を知っている割合が55%であることを明らかにしている。さらに各学科の認知度は、最も高い看護学科で21.6%、最も低い作業療法学科では2.9%であった。大学から10km圏内に存在する中学校においてそのような結果であるならば、約100km離れた茨城県北部ではさらに低い値を示すことが予想される。しかしながら、これまで本学の認知度について体系的な調査が実施されたことはない。18歳人口の減少が進む現在、大学運営の方向を見定めるためにも、県内小中高生のみならず茨城県内外の人々を対象とした認知度や魅力度調査が重要である。

また、現代社会において様々な情報の入手はウェブサイトを通してなされることが多く、大学に関する情報についても同じである。大学広報においても、データに基づいた戦略的なウェブサイト構築が重要であることが指摘されている。本研究では②の目的のもとに、茨城県立医療大学公式ウェブサイトのアクセス解析を行い、その結果に基づいた効果的なウェブサイト構築の提言を行う。さらに、ウェブサイトの主たるステークホルダーの高校生に最も近い存在である大学生と教職員が協同してウェブ広報活動を行い、それらの活動による本学の認知度や魅力度の変化を検討したい。

本研究は3カ年計画であり、その1年目に当たる本年は、茨城県民を対象とし、茨城県立医療大学の認知度や魅力に関してウェブ調査を行い、現状を明らかにすることを目的とした。

#### 2. 研究方法および研究結果

##### 【研究1】茨城県内の児童・生徒における茨城県立医療大学の認知度ベースライン調査

###### (1)研究方法

調査対象:茨城県内の小学5年生(県南2校, 鹿行1校, 県西1校)・中学2年生(県央1校, 鹿行1校)・高校2年生(県北1校, 県央1校, 県南2校)の合計759名が調査に参加した。

調査内容:①茨城県立医療大学に関する認知度:①存在認知, ②(知っていた人に対して)知ったきっかけ, ③医療専門職種への知識, ④本学で養成している医療専門職種, ⑤入試難易度のイメージ, ⑥学費のイメージ, ⑦茨城県立医療大学の【よいと思うところ】または【直したほうがよいところ】(自由記述)

手続き :各学校に調査依頼状を送り, 校長の許可が得られた学校に対し質問紙を送付して回答を依頼した。

## (2) 研究結果(抜粋)

本学の認知度について, 学校種ごとに算出した結果, 高校では73.6%, 中学校では12.0%, 小学校では17.4%であった。小学校よりも中学校の認知度が低くなっているが, これは調査協力をしてくれた小学校の中に県南の学校が2校あったのに対し, 中学校ではなかったことが関係していると推察される。

本学がどのような医療職種を養成しているかの認知については, 本学の5つの医療専門職種の中では, 高校では看護師との回答が82.8%で最も高く, 最も低かったのが診療放射線技師で59.9%であった。中学校では看護師が80.9%で最も高く, 最も低かったのが作業療法士で41.2%であった。小学校でも看護師が71.5%と最も高く, 作業療法士が17.2%ともっとも低かった。しかし, 回答の中には全ての職種にチェックがなされていたものも含まれており, 実際はさらに低い可能性もあることを留意する必要がある。

## 【研究2】茨城県内外の成人における茨城県立医療大学の認知度ベースライン調査

### (1) 研究方法

調査対象:茨城県民計2000名(県内5地域, 男性:1140名・女性:860名, 20代:167名;30代:366名;40代:492名;50代:435名;60代:375名;70代:165名)が調査に参加した。

調査内容:研究1と同様。

手続き :ウェブ調査会社を利用して実施した。

### (2) 研究結果(抜粋)

まず, 調査対象全体における本学の認知度は37.0%であった。表1は地域別・年代別の認知度を示しており, 県央および県南における認知度はある程度高いものの, 鹿行や県西での認知度が低いことが明らかとなった。職業によっても認知度は異なり, 公務員と専門職ではそれぞれ72.1%, 72.7%と高く認知されていたが, それ以外の会社員等の職業ではそれよりも低く, 上記の2つを除いた認知度は33.9%であった。

表1 地域別年代別認知度

	県北	県央	鹿行	県南	県西
全体	36.4%	45.8%	21.9%	39.8%	27.5%
20代	22.6%	36.8%	14.3%	31.5%	18.2%
30代	40.8%	40.2%	14.3%	32.0%	23.5%
40代	29.6%	41.3%	21.7%	36.8%	25.9%
50代	37.4%	53.9%	22.5%	52.4%	28.9%
60代	42.9%	47.6%	29.7%	46.0%	37.5%
70代	43.5%	58.1%	33.3%	34.3%	6.7%

本学がどのような医療職種を養成しているかの認知については, 理学療法士の養成との回答が52.9%で最も高く, 最も低かったのが診療放射線技師で36.6%であった。留意点については研究1と同様である。

## 3. 考察(結論)

茨城県内における本学の認知度について, 数値を示すことができた点は, これから大学広報を展開する上で意義がある。今回は調査協力校が少なかったため慎重な解釈が求められるものの, 職場体験等のキャリア教育がなされる中学生において認知度が低く, より早期の医療専門職種の周知が重要ではないかと考えられる。

## 4. 成果の発表(学会・論文等, 予定を含む)

全国大学入学者選抜研究連絡協議会大会および日本心理学会にて発表予定。

## 5. 参考文献

塚本和己, 古家宏樹, 藤田智也, 富田和秀, 武島玲子, 桜井直美, 角正美, 小林秀行, 梅澤光政, 飯塚眞喜人. 茨城県内中学生を対象とした茨城県立医療大学および各専門職の認知度と職業選択に関する意識調査. 茨城県立医療大学紀要. 2015;20:67-74